過ぎ去りし日々を偲んで。

故 山田花子 儀（九十一歳）

「お袋のおかげで、まぁまぁ
まともに生きとります
長いこと 本当にありがとう…」

つらいことや苦しいことがあっても、じめじめした気持ちをからっと吹き飛ばすような明るさを持ち、いつも笑顔で私たちを元気づけてくれた母は、まるでお日様のようでした。自分のことより我が子を優先し、あれこれと心配してくれた優しさが、今になって心に染み入ります。時に「二人を残して死ねんなぁ」「百まで生きる」と言っては、朗らかに笑っていた面影。百まで頑張ってほしいと願っていただけに、この別れが寂しくてなりません。

明治生まれの母は、幼い頃からずいぶんと苦労を重ねてきたのだと、よく昔語りに聞かせてくれました。テレビドラマの『おしん』にも似た、激動の人生だったのだそうです。「おしんは晩年になって成功したけど、私は貧乏してるよ」苦労話も笑って語る母の生き方は、とても真似ができないけれど、私たちに数多くの大切なことを教えてくれました。母との思い出を、いつの日か子や孫に笑って聞かせられるよう、今はただ涙を耐えて旅立ちを見送りたいと思います。

母 山田 花子 は、平成二十年十二月十二日、家族の胸に温かな面影を残し、満九十六歳の天寿を全うしました。生前賜りましたご厚情に、心より感謝申し上げます。本日のご会葬 誠に有り難うございました。

この度はご多忙中にもかかわらずご会葬いただき、
また生前故人が大変お世話になりましたことを、
この場をお借りして深くお礼申し上げます。

喪主 山田 太郎
外親戚一同